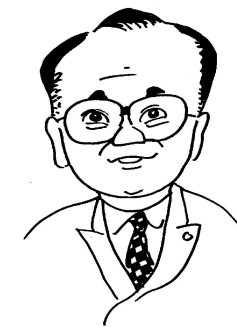


禅

ZEN



京都萬福寺 十八羅漢像のうち羅睺羅尊者
范道生作 江戸時代 寛文4年(1664)



- 心をかたちに -

約1500年前 達磨大師によってインドから中国へ伝えられたといわれる「禅」は、臨済義玄禅師によって広がり、やがて我が国に伝えられ、中世には武家をはじめ、天皇家の帰依を受け、日本の社会と文化に大きな影響を及ぼしました。

今年(平成28年)の春、4月12日より5月22日までの間、京都国立博物館で「禅 心をかたちに」の特別展覧会がありました。ようやく最終日に時間がとれて、行ってきました。

禅は、基本的にキリスト教のような聖書もなく、仏教のように仏像も多くはないです。禅宗は、不立文字(ふりゅうもんじ)を原則とします。不立文字とは、文字、言葉の上には真実の仏法がないという考え方で、仏祖の言葉は解釈によっていかようにも変わってしまうものだという意味です。文字や言葉が少ないにも関わらず、1500年間、脈々と伝え続けられてきました。「生活習慣」を正し、伝え続けることで、その考えが伝承されています。禅では、座禅という修行がポピュラーですが、食事をするのも修行、風呂に入るのも修行、掃除をするのも修行ととらえ、伝えてきました。

左図の羅睺羅尊者像は、腹の中に仏があります。禅宗では人間そのものが仏と考えた由、このような像になったと思います。

衝撃的でした！

東京展は、東京国際博物館で、10月18日から11月27日まで催されます。